1 研究構想図

学習指導要領の確実な実施

- ・主体的・対話的で深い学び
- ・カリキュラム・マネジメント 等

豊島区教育ビジョン

- · SDG s 未来都市宣言
- ・豊島ふるさと学習の充実 等

教師の願い

・児童が主体となる深まりのある授業を行える ようになりたい。

学校の教育目標

「共に生き 共に輝こう」

~豊かな学びとやさしい心

元気いっぱい夢にチャレンジ~

・教科でのファシリテーションの仕方を学びた い。

児童の実態

- ・生活・総合の学習での主体性が見られるよう になってきた。
- ・主体的な児童とそうでない児童の差が大き い。
- ・教科学習での主体性に課題がある。

研究主題設定の理由

児童がすすんで学びに向かうためには、児童自身が「問い」をもつことが重要である。また、「問い」を「問い」のままで終わらせず、児童同士で共有し、探究的・協働的に解決していくために、協働学習の中心である「対話」に焦点を当て、主体的に学びを深め練り上げる児童を育成することを目指し、本研究主題を設定した。さらに、副主題には、前年度まで行ってきた児童を信じて、「児童に任せる」というファシリテーターのスタンスを取り入れ、児童の主体的な学びを生み出すことを意

識した手だてを行っていくことを示した。

昨年度からの研究の流れ

昨年度まで行ってきた生活科・総合 的な学習の時間を中心とした児童の主 体性を高める探究的な学習の研究で は、地域の材を生かすことと、教師がファシリテーターになることで、一定の 成果を上げることができた。今後はこ の研究成果を各教科の学習に広げ、児 童の主体的に学ぶ力を高める授業改善 を行っていくことが必要である。

研究主題

自分自身の問いを「対話」で深め練り上げる児童の育成

~学びを生み出すファシリテーションの工夫~

研究仮説

教師が、学びを生み出すファシリテーションの工夫を行っていけば、 自分自身の問いを「対話」で深め、練り上げる児童の育成することができるだろう。

研究の手だて

ファシリテーションの工夫

研究授業の視点

- ① 児童の問いを生み出せていたか。
- ② 「対話」を深め練り 上げられていたか。
- ③ 学年独自の視点